

第2回プレゼンコンペティション活動報告書

3年佐々木ゼミ長 8090046 伊達昌俊

今回の活動は佐々木ゼミ主催で行われたプレゼンコンペティションについてまとめたものである。この企画の立ち上げたきっかけは、ある議論の中から出てきた本学科の現状であった。



現状

- ・ 人間社会学科は創設して間もないため時間をかけて受け継がれてきた伝統がない。
- ・ 本学での人間社会学科の説明にある中で、特徴的なものは「コミュニケーション」であるが、その力は形に表せないため学科の特色を多くの学生は述べるできない。

そこで今回のプレゼンコンペティションが企画された。



企画の趣旨

- ・前年に引き続き開催し、次年度以降は後輩たちが主催したいと思えるような内容にすることで伝統的なイベントにする。
- ・「プレゼンの人間社会学科」と言われるようなプレゼンスキルを身につける。

まず、我々は本学科 1.2 年生に企画内容、趣旨説明をしたうえで参加者を募った。同時にポスターを本学の各掲示板に掲示することで他学科への宣伝を行った。合計 6 組の参加者が集まり、打ち合わせをし、数日のリハーサルを行い当日に臨んだ。



当日は 48 名が聴衆として集まっていた会場は盛況であった。
聴衆には以下の用紙に評価を記入してもらいプレゼンターの優劣を決定した。

発表者:		テーマ:	
わかりやすさ	/20	題材の魅力	/15
スライドの効果	/20	ノンバーバル	/20
テーマに対する発表者の熱意			/10
滑舌の良さや音声の聞きやすさ	/15	合計	/100
コメント:			

企画は概ね順調に進み 6 組のプレゼンに加え、プレゼン参加者とは別に申し出のあった旅行研究会の韓国研修報告も終わられ、企画は幕を閉じた。プレゼン後に別室にて、交流会も設けていたのだがプレゼン参加者と運営の者のみしか集まらず残念だった。そこで聴衆から記入してもらった各プレゼンへの採点を集計したものと評価を発表し参加者はそれ

それぞれのプレゼンの良かった所、悪かった所を知り、今後のプレゼン能力の向上へ繋げる事が出来たと思う。



反省点

前年度に引き続き 2 度目の開催となった活動であるが、そのためまだまだ準備段階において至らない部分が多かった。

- ①全員で全体を通してのリハーサルができず本番をスムーズに進められなかった。
- ②宣伝効果が薄く他学科、説明を行わなかった本学科 3.4 年生の来場数が悪かった。

③採点式であるため聴衆が多くなるほど、記入ミスが出たり、集計に時間がかかったりした。

